

令和 3 年 5 月 25 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K10140

研究課題名(和文) がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of the Collaborative Education Program Based on Clinical Judgment of Nurses in the Oncology Team

研究代表者

眞嶋 朋子(MAJIMA, TOMOKO)

千葉大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：50241112

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：「がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラム」開発のため評価指標を作成することを目的とし、フォーカスグループインタビュー、2回のデルファイ法による質問紙調査を行った。その結果、修正した「がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラムのための評価指標」の妥当性、重要性の一致率は高いが、実現可能性の項目の一部に評価の低い項目が含まれていることが明らかとなった。連携教育プログラムにおいては、評価項目を用いて教育プログラムの目標の構造化、および実現困難な項目への具体的解決方法等を提示する必要性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、緩和ケアの移行の時期に関連するがん医療チームが関わる患者や家族の複雑な課題に対して、看護師の思考と実践をサポートまたは強化するための評価指標を明らかにしたものである。評価指標の原案は、がん看護専門看護師教育の中で修得できる内容である。評価指標が明らかにされることにより、がん看護領域における看護の教育プログラムの目標および看護師が修得すべき能力の言語化が可能となる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop an evaluation index for "a collaborative education program based on the clinical judgment of nurses in the cancer medical team." We conducted focus group interviews and two Delphi method questionnaire surveys. The results showed that the revised "Evaluation Index for Collaborative Education Programs Based on Nurses' Clinical Judgment in Cancer Medical Teams" was highly valid and essential. However, some of the items of feasibility showed low evaluation. These results suggest that it is possible to set goals using evaluation items in future collaborative education programs.

研究分野：看護学

キーワード：がん看護専門看護師 連携教育 看護師 臨床判断

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の目的は、「がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラム」を開発することであった。

平成 25 年に実施した「チーム医療を促進するがん看護専門看護師の臨床判断」の成果、専門家会議、ニーズ調査をもとに、「がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラム」の評価項目等を作成する。

をもとに「がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラム」を作成し、実施可能性を検証する。

「がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラム」のため評価指標を作成することを目的とし、具体的研究課題は以下のとおりである。

(1)がん看護専門看護師、看護師のがん医療チームにおける看護実践の内容が評価指標(原案)と関連があるかを明らかにする。

(2)「がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラム」評価指標の各項目の妥当性、重要性、実現可能性を明らかにする。

2. 研究の目的

「がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラム」のため評価指標を作成することを目的とし、具体的研究課題は以下のとおりである。

(1)がん看護専門看護師、看護師のがん医療チームにおける看護実践の内容が評価指標(原案)と関連があるかを明らかにする。

(2)「がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラム」評価指標の各項目の妥当性、重要性、実現可能性を明らかにする。

3. 研究の方法

(1)の研究課題に対する方法

調査対象：他の専門職(自職種以外 1 職種以上)と連携し、患者の問題を解決した経験のある看護師経験 3 年以上の看護師、がん看護に関わる看護師、がん看護に関わる部署の師長または副師長、看護系大学教員

調査方法・内容：フォーカスグループインタビュー、専門職連携に関する実践経験、評価指標(原案)と実践内容の関連

(2)の研究課題に対する方法

調査対象：がん診療連携拠点病院に所属する看護師およびがん看護専門看護師

調査方法・内容：デルファイ法、「がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラムのための評価指標」の妥当性、重要性、実行可能性の 4 段階評価

4. 研究成果

(1)の研究課題に対する成果

看護師 4 人、専門看護師 9 人の計 13 人、フォーカスグループは 5 - 6 人 計 3 グループで実施。がん看護専門看護師からは、13 カテゴリに含まれる項目は専門看護師として実際に行っている、または実施可能な内容であることが示された。がん看護専門看護師以外の看護師からは、カテゴリ《患者に関わる他職種が持っている力や特性を把握する》《問題解決に向けて他の職種に対する介入の方策を見出す》に含まれる項目は、状況によっては実施することが難しいことが示された。専門看護師、看護師の両者から、カテゴリ《問題解決に向けて患者に関わる人々に働きかけ巻き込む》について、勤務経験の短い看護師が実施することが難しいため、専門看護師との協働での実施が効果的であるとの意見が示された。専門看護師、一般看護師両者から、サブカテゴリ「主治医の思考過程を推測する」は主治医とコミュニケーションをとることが難しい場合があるという意見が示された。

(2)の研究課題に対する研究成果

対象者の概要 がん看護専門看護師 28 人、平均年齢 46.4 才(35 才~58 才)勤務経験年数平均 21.8 年(9-32 年)、がん看護専門看護師としての経験年数 平均 9.5 年(3-18 年)勤務している施設 大学病院 5 人、国公立病院(大学病院を除く)2 人、私立病院 1 人、がんセンター 4 人、その他 16 人、多職種との関わり週に 1 回以下 3 人、週に数回 5 人、毎日 12 人、毎日 1 回以上 7 人、無回答 1 人、がん看護の専門職連携やチーム医療に関する教育・研修の受講の有無 受けた 25 人、受けていない 3 人教育・研修を受けた機関(複数回答あり)教育機関 16 人、卒後教育・継続教育 12 人、その他 5 人(研修会、他団体の行っているワークショップなど、院内外の専門研修、がん診療連携拠点病院での実地研修)受けた研修の満足度 まあまあ満足 22 人、不

十分3人、大学院生16人アンケート回収率 100%、平均年齢 40.6才(29-52才)、勤務経験年数平均16.4年(6-30年)、がん看護専門看護師課程 1年目6人、2年目7人、3年目2人、修士課程1人、勤務状況 大学病院4人、国公立病院1人、私立病院3人、がんセンター3人、その他2人、勤務していない3人資格保有状況 がん性疼痛認定看護師2人、緩和ケア認定看護師3人、がん患者の治療・看護の関わり状況 週に数回1人、毎日8人、毎日1回以上7人

ラウンド1

【妥当性】

・妥当性の一致率は0.91~1.0であった。

【重要性】

・重要性の一致率は0.91~1.0であった。

【実現可能性】

・実現可能性の一致率は0.84~1.0であった。

・実現可能性の一致率が0.90未満の項目は、以下5項目であった。

| | | |
|------|---------------------------------|------|
| 4-2 | 主治医と病棟看護師等との協働に効果的なカンファレンスを企画する | 0.86 |
| 9-2 | チームにおける自身の役割を認識し、その役割の範囲内で活動する | 0.89 |
| 11-2 | 患者に継続的なチームケアを保障する | 0.86 |
| 12-1 | チームメンバーの認識の共有や合意形成に至った要因を振り返る | 0.84 |
| 12-2 | チームメンバーの協働を妨げる要因について検討する | 0.86 |

ラウンド2

【妥当性】

・妥当性の一致率は0.90~0.98であった。

【重要性】

・重要性の一致率は0.95~0.98であった。

【実現可能性】

・実現可能性の一致率は0.76~0.95であり、2項目が一致率0.76以下であった。

以上の結果から以下が示唆された。

(1)がん看護専門看護師、看護師のがん医療チームにおける看護実践の内容が評価指標(原案)と関連を検討した結果、評価指標原案に含まれる項目すべてが、看護実践の内容と関連していることが明らかとなった。

(2)「がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラム」評価指標の各項目の妥当性、重要性、実現可能性をラウンド1、ラウンド2で検討した結果、妥当性、重要性においては高い評価結果であったが、実現可能性については低い結果があり、項目としては重要であるが、関わる職種および状況によっては、実施が困難な状況が明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 眞嶋朋子, 國武由香里, 松戸麻華, 増島麻里子, 楠潤子, 渡邊美和, 長坂育代, 大塚知子, 岡本明美 |
| 2. 発表標題 がん医療 チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラムのための評価指標の開発 |
| 3. 学会等名 第14回 日本看護科学学会学術集会 |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 岡本 明美 (OKAMOTO AKEMI) (20456007) | 亀田医療大学・看護学部・教授 (32529) | |
| 研究分担者 | 梅田 恵 (UMEDA MEGUMI) (20522410) | 昭和大学・保健医療学部・客員教授 (32622) | |
| 研究分担者 | 楠 潤子 (KUSUNOKI JYUNKO) (30554597) | 千葉大学・大学院看護学研究科・助教 (12501) | |
| 研究分担者 | 増島 麻里子 (MASUJIMA MARIKO) (40323414) | 千葉大学・大学院看護学研究科・教授 (12501) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 長坂 育代 (NAGASAKA IKUYO) (50346160) | 淑徳大学・看護栄養学部・特任准教授 (32501) | |
| 研究分担者 | 渡邊 美和 (WATANABE MIWA) (90554600) | 東都大学・幕張ヒューマンケア学部・大学院看護学研究科・講師 (32428) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |